

蒲田富士の登りにかかる。

雪は少なく多くのハイマツが露出している。

心配された雪害も大きな物でなかった。

本当に雪が少ないのだ。

西尾根の成否のポイントはこの通過にある。積雪量が多くここに巨大な雪庇が出来ると通過は極めて困難になる。

事実昨年決松の人達もはって

通過したと報告があった。

事故も多く三大北壁に登った同士の会の星野隆男もここに掛つてい

眼下は蒲田富士の様貌

（奥には西ヶ岳）

人物は田邊回ヤン



5月の偵察ではどうなるやらと

の思いだっただが今のところ楽である。高山に下沢のコルに着く。まだ夜は明け切れず暗い。

廻沢岳の登りにかかる。風が

つきた。苦しい登りだが全員がんばる。

上にいくに従って風は強くなってきた。時々体がもっていかれバランスを崩す。

昨年の風もすごかったが今年も仲々だ。

廻沢岳をこえる。このころようやく明るくなる。穂高山荘は眼前だった。

山荘の前で大休止。東の空は真紅に染まっているが陽は仲々出てこない。

そして奥壁はまだ夜のとほりかあたりを覆いその全容を見せていない。前穂の北尾根に雪煙がパツパツと舞う。